

独立行政法人日本芸術文化振興会 御中

令和6年度 国立劇場伝統芸能伝承者養成所 応募者確保のための調査

調査結果概要と今後に向けたご提案

2025年1月27日

調査目的

国立劇場伝統芸能伝承者養成所における認知度向上と継続的な研修生応募者の獲得という課題に対応するために、研修生応募検討世代の子をもつ親世代に対する調査を実施し、研修生応募者確保のための今後の対応策を提案する。

調査の流れ

本調査では、「定量調査」を行った後に「定性調査」を実施した。伝統芸能を子供の職業として捉えた際の印象について、定量調査で傾向を量的に把握した上で、その結果を基に「定性調査」を実施することにより詳細の把握も行った。

定量調査



研修生応募検討世代の子をもつ親世代1,200名に対し、子供の職業としての伝統芸能に対する印象について聴取を行う。多くのサンプルを回収することにより、回収結果を数値化し量的に把握を行う。

調査方法：インターネットモニター調査

調査期間：2024年12月4日（水）

～12月9日（月）

調査対象：全国30～69歳男女のうち、
小学校4年生～大学生の子供をもつ人1,200名

サンプル内訳

- 【関心層】伝統芸能に興味・関心あり 400s
- 【一般層①】伝統芸能にどちらかといえば興味・関心あり 400s
- 【一般層②】伝統芸能にどちらかといえば興味・関心なし、興味・関心なし 400s

定性調査



定量調査の回答者の中から8名を選定し、より踏み込んだ内容について聴取を行う。定量調査では捉えることができなかった回答内容の背景・理由について具体的に把握を行う。

調査方法：フォーカスグループインタビュー

調査期間：2024年1月8日（水）

調査対象：定量調査回答者のうち、
伝統芸能関心者4名×2グループ

グループ構成

- 【グループ1】子供が希望する場合は伝統芸能の職業に就いても良い
- 【グループ2】子供が希望する場合でも伝統芸能の職業に就いて欲しくない

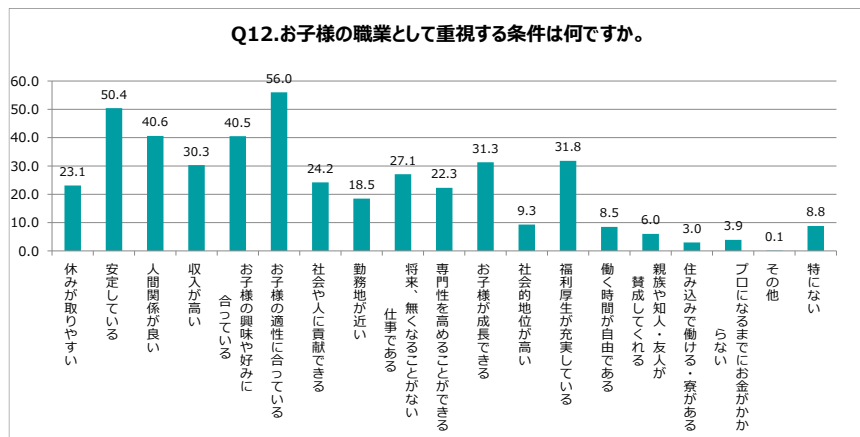
ご提案



定量調査・定性調査の結果より、子供が伝統芸能の職業を選択する際の保護者が抱える課題を明らかにした上で、研修生応募者確保のためのご提案を行う。

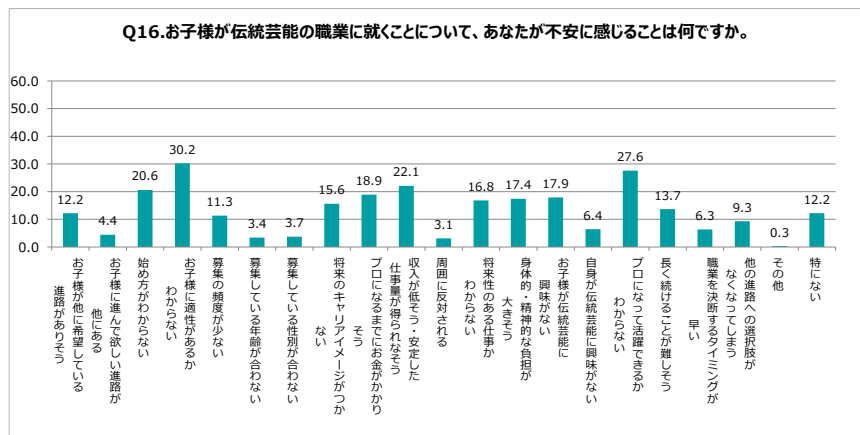
定量調査

子供の職業として重視する条件



▲子供の職業として重視する条件は、「お子様の適性に合っている(56.0%)」「安定している(50.4%)」が高い項目となっている。

伝統芸能の職業に対する不安



▲伝統芸能の職業に対する不安は、「お子様に適性があるかわからない(30.2%)」「プロになって活躍できるかわからない(27.6%)」「収入が低そう・安定した仕事量を得られなさそう(22.1%)」が高い項目となっている。

定性調査

国立劇場養成所の概要に対する印象

良い点

- 何から始めたら良いかわからない人にとっては、養成の場が存在することで基礎から体系的に学ぶことができる
- 未経験から始められる
- 受講料が無料である

改善が必要な点

- 無料の範囲内で多くを学べるというイメージがもちづらい
- 適性審査の時点では見極めが難しく、それ以降も適性が無ければ脱落してしまうという不安が大きい
- 修了後も、家柄でない養成所出身者が生計を立てていくことは難しい世界と捉えている
- 途中で続けられなくなった際に他の選択肢を失ってしまう印象が強い

応募者増加のための取組について

良い点

- 体験教室は入門編として評価が高く、子供を参加させたいという声が多く挙がった。
- 研修見学会やプレ研修については、より入所を検討している層に対して有効な取組であると評価する意見があった。

改善が必要な点

- 東京や大阪から離れた地域に住む対象者からは、費用や時間の問題もあり東京に来てまで参加はしないという意見が多い。
- 小さい子供は1人では参加できないため、保護者も同伴できるような日程や場所でないという意見もあった。
- 取組について知られておらず、PRを行うべきという意見が多く見られた。

ご提案にあたっての考え方

定量調査の結果を受けて

子供が伝統芸能の職業に進むことへの不安要素については、関心層～一般層②のそれぞれにおいて、割合が高い項目は共通の傾向がみられた。よって、**伝統芸能の職業への不安は保護者の伝統芸能への関心の高低に関わらず、共通している**ことが考えられる。

本年度の調査では、関心層・一般層に関わらず全ての保護者に対して、**初期段階としての「伝統芸能の職業への理解度向上」と、次の段階である「現実的に職業の選択肢として検討し、子供を後押しできると思える情報の発信」**に向けたご提案をグループインタビューの結果も踏まえて行う。昨年度調査における子供本人の興味関心の向上の次のステップとして、保護者の理解や後押しが得られるような情報を発信することで、子供と保護者の双方がより現実的に応募を検討できることを目指す。

子供の
興味関心の向上
(R5年度調査)

保護者の
伝統芸能への
理解度向上
(R6年度調査)

保護者が
後押しできる
情報の発信
(R6年度調査)

低 検討の度合 高

調査結果を受けての
ご提案ポイント

- ①保護者の伝統芸能の職業への理解度向上
- ②保護者が後押しできると思える情報の発信

既存の伝統芸能体験教室の有効活用

国立劇場伝統芸能伝承者養成所が主催する“やってみる”シリーズについて、グループインタビューでは、伝統芸能への入り口の実践として評価が高かった。グループインタビューで挙げた意見を基に、より参加しやすいイベントとなるよう下記のご提案を行う。

実施方法

- ✓ 地方都市も含めた全国各地での開催
- ✓ 地域の人が集まる施設での開催
- ✓ 学校行事として実施
- ✓ 休日の実施
- ✓ 交通費の補助を行う

- ➡参加のための交通費や宿泊費等によるハードルを下げ、東京周辺以外の地域に住む人の参加へのモチベーションを上げる
- ➡地元の公民館等の人が集まる場所で気軽に参加できるようにする
- ➡住民同士の繋がりが薄い地域においても、子供が友達と一緒に体験できるようにする
- ➡保護者の仕事が入らない休日に開催することで、小さな子供でも参加しやすくする
- ➡遠方からの参加者の交通費を補助することで、限られたエリアで実施する場合においても参加へのハードルを下げる

PR方法

- ✓ SNS広告を通じた情報発信
- ✓ 学校での周知
- ✓ 学年・年代に応じたPRを行う
- ✓ 夏休みの自由研究と絡めたPRを行う

- ➡特定の属性に対するターゲティングが可能であるとともに、養成所のHPやアカウントを見ない人の目にも触れるようにする
- ➡小学校～高校まで幅広く学校での案内配布を行うことにより、子供の目に留まり、自発的に参加を希望する可能性を高める
- ➡小中学生には楽しく学べること、高校生・大学生には進学先、就職先検討の機会にもなるような場であることをアピールすることで参加への意欲を高める
- ➡自由研究を参加のきっかけとし、保護者も含めてテーマを考える家庭からも参加を促す

必要とされる能力についての情報

- ✓ 未経験から始められることのアピール
- ✓ 修了までのハードルに関する情報を提供

➡世襲制のイメージを払拭

- ◆ 選考試験や適性審査の難易度がわかるような情報を提供
- ◆ 修了できる人数についての情報を提供

➡必要な能力の水準を明示し、脱落への不安を払拭

➡入所者のうちの修了している割合を明示し、修了まで続けることができないという不安を払拭

キャリアに対する期待感を高める情報

✓養成所の修了者の活躍についての情報発信

- ◆ 修了者の就職先データの提供
- ◆ 養成所出身者で活躍している人の紹介

➡修了後に活動する場所がわかることで、将来の活躍のイメージをつける

➡修了後に到達できるレベルがわかることで、修了後の期待感を高める

✓仕事を続けていくためのサポート体制のアピール

➡修了後も仕事の斡旋等を行い、伝統芸能の職業の不安要素である収入や安定性が低いイメージを払拭

✓やむを得ず続けられなくなった際の選択肢を提供

- ◆ 高卒資格・大卒資格を取得できるカリキュラムの導入
- ◆ 伝統芸能で培った能力を活かせる仕事の提案

➡卒業資格を取得し再就職もしやすくすることにより、キャリアにおける安心感を高める

➡養成所で身に着けたスキルが他の仕事にも応用できることをアピールし、キャリアにおける安心感を高める

経済面に関する情報

✓ 修了後の経済面に関するデータの公開

- ◆ 修了後の給与に関するデータを公開
- ◆ 修了後にプロになった人のスケジュールを公開

- ➡1年目の1ヶ月あたりの給料など、目安の金額を示し、生活していくイメージをもてるようにする
- ➡1週間や1ヶ月単位のスケジュールやより長期的なスケジュールを公開することで、仕事を継続できるかの判断やライフプランも含めたイメージをもてるようにする
- ➡保護者にとっても援助が必要となる金額を知ることができる

✓ 研修中にかかる費用についての公開

環境・待遇に関する情報

✓ 養成所で貸与されるものについての案内

- ➡費用が高額なイメージをもつ人や、馴染みがなく費用のイメージがもてない人の金銭的な負担感を軽減

✓ 養成所内での人との関わりについての様子を公開

- ➡講師や研修生同士との関わりについての様子を公開し、養成所での人間関係や講師陣のレベルの高さもアピール

✓ 養成所の見学会を実施

- ➡実際に養成所の雰囲気を感じることができる機会の提供を継続していくことで、応募検討の意欲を高める

その他

✓ 就職に関する相談窓口の設置

- ➡始め方がわからない人や本格的に検討している人に対し、本人や保護者の疑問や不安を解消する場を設ける

①保護者の伝統芸能の職業への理解度向上

既存の伝統芸能体験教室の有効活用

国立劇場伝統芸能伝承者養成所が主催する“やってみる”シリーズについて、グループインタビューには伝統芸能への入り口の取組として評価が高かった一方で、「参加のしやすさ」については**向上の余地がある**という意見もみられた。グループインタビューで挙げた意見を基に、より参加しやすいイベントとして捉えられるような「実施方法」「PR方法」のご提案を行う。

実施方法

- ✓ 地方都市も含めた全国各地での開催
- ✓ 地域の人が集まる施設での開催
- ✓ 学校行事として実施
- ✓ 休日の実施
- ✓ 交通費の補助を行う

PR方法

- ✓ SNS広告を通した情報発信
- ✓ 学校での周知
- ✓ 学年・年代に応じたPRを行う
- ✓ 夏休みの自由研究と絡めたPRを行う

②保護者が後押しできると思える情報の発信

就職先としての伝統芸能の職業に関する情報発信

伝統芸能の職業に関する情報はあまり発信されておらず、魅力や実態が認知されていない。また、保護者にとっても現実的に考える上での検討材料が少ない。より現実的な職業の選択肢として検討してもらうために、**求職者やその保護者が求める情報を集約して発信**することが求められる。本調査結果から、保護者が求める情報やサポートの内容を踏まえ、発信する情報の内容についてご提案を行う。

必要とされる能力についての情報

- ✓ 未経験から始められることのアピール
- ✓ 修了までのハードルに関する情報を提供
 - ◆ 選考試験や適性審査の難易度がわかるような情報を提供
 - ◆ 修了できる人数についての情報を提供

キャリアに対する期待感を高める情報

- ✓ 養成所の修了者の活躍についての情報発信
 - ◆ 修了者の就職先データの提供
 - ◆ 養成所出身者で活躍している人の紹介
- ✓ 仕事を続けていくためのサポート体制のアピール
- ✓ やむを得ず続けられなくなった際の選択肢を提供
 - ◆ 高卒資格・大卒資格を取得できるカリキュラムの導入
 - ◆ 伝統芸能で培った能力を活かせる仕事の提案

経済面に関する情報

- ✓ 修了後の経済面に関するデータの公開
 - ◆ 修了後の給与に関するデータを公開
 - ◆ 修了後にプロになった人のスケジュールを公開
- ✓ 研修中にかかる費用について公開

環境・待遇に関する情報

- ✓ 養成所で貸与されるものについての案内
- ✓ 養成所内での人との関わりについての様子を公開
- ✓ 養成所の見学会を実施

その他

- ✓ 就職に関する相談窓口の設置